

東日本大震災

仏教

絆

コミュニティ

終末期医療と宗教

東北

高橋悦堂師

曹洞宗僧侶

臨床宗教師 ～生死、地域のもつ宗教性と共に～ 第79回ARENA定期セミナー

2015.10/16金
17:00-18:30
総合研究棟A 107号室



高齢多死社会を迎えつつある日本では、地域包括ケアが叫ばれています。地域の力を活かし個人に全人的なケアを提供するという考えのなか、その土地に根づく宗教者に何ができるのか。東日本大震災後、火葬場での犠牲者読経活動や被災地域での傾聴茶話会活動などで感じた宗教性や、宮城県仙台市および名取市において終末期がん患者等に在宅緩和ケアを提供する岡部医院で臨床宗教師として関わるなかで感じたコミュニティの在り方などを、臨床宗教師の高橋悦堂師にお話しいたします。

講演冒頭では、中東・北アフリカ地域研究や宗教学の立場から、北アフリカ研究センター岩崎助教が、比較対象としてイスラーム社会における宗教とコミュニティのかかわりについてお話しします。

主催：北アフリカ研究センター (ARENA)

協力：人文文化学群 比較文化学類比較宗教コース，地域研究イノベーション学位プログラム (

連絡先：北アフリカ研究センター 岩崎真紀助教 arena@un.tsukuba.ac.jp



講演者略歴

駒澤大学仏教学部卒業、曹洞宗総合研究センター教化研修部門研修課程修了。現在、宮城県普門寺副住職のかたわら、医療の現場で、医師や看護師と連携しながら「臨床宗教師」として、医療者とは違う立場で患者を支える活動を行なう。その様子は2014年11月29日NHK ETV特集「臨床宗教師：限られた命とともに」でも放映された。掲載写真は同番組より。